

# 愛南柑橘宮農環境改革プラン

概要版



平成 29 年 3 月 愛南町





# 愛南柑橘営農環境改革プラン

持続可能なまちづくりを支える愛南柑橘産業の確立をめざして



我が国全体で人口減少、少子高齢化が進む中、政府は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成26年12月27日閣議決定)を定め、その地方における取組として愛南町では「愛南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成28年3月)を策定しました。

「愛南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、愛南町は将来にわたり、人口減少の抑制に取り組み、人々が安心して住み続けられる・住み続けたいと思えるまちづくりをめざすとしており、「活力ある産業を育てる」など4つの基本目標を掲げています。

そうした目標を実現するため、愛南町の基幹産業の重要な役割を担う柑橘産業が活性化し、地域が自立することで、愛南町の持続的なまちづくりを支える足腰の強い産業となることを目的として「愛南柑橘営農環境改革プラン」を策定しました。

## ●●● 愛南柑橘の現状 ●●●



独自の販路を開拓している生産者

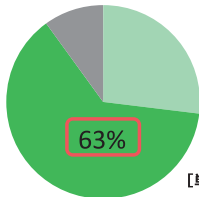
**約半数**

後継者のいない生産者

**約6割**

- 出荷先の異なる生産者同士が共存しています
- 若い生産者は、規模拡大、販路拡大、6次産業化などに対して意欲的です
- 収穫時期など繁忙期の人手が足りておらず、人手を確保するための情報をタイムリーに発信する仕組みがありません
- 後継者不在により遊休農地が増加していますが、農地を次世代にスムーズに引き継ぐ仕組みがありません

【後継者の有無】



**後継者がいない**

※集計対象を40歳以上に限定している



河内晩柑のNo.1産地!!

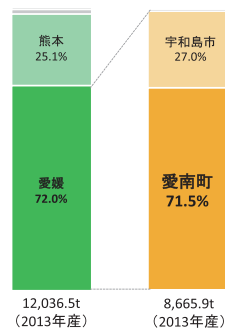
河内晩柑を初めて食べた人のおいしいと答えた人

**約9割**

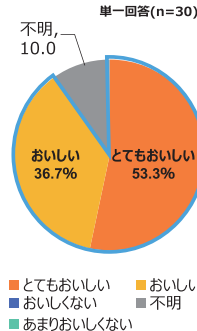
河内晩柑を知っている人 **約2割**

- 河内晩柑の全国一の産地です
- 河内晩柑を初めて食べた人による味の評価や購入の意向はとて高くなっています
- 生果(モノ)があまり流通しておらず、認知度は低くなっています
- 河内晩柑は他産地の勢いが増しており、No.1産地の地位が揺らぎはじめています

【河内晩柑生産量のシェア】



【味の評価】



遊休農地は

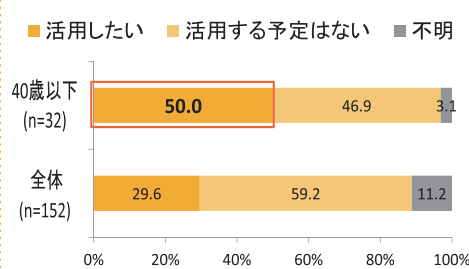
**16ha以上**

遊休農地を活用したい若い生産者は

**約半数**

- 若者の半数に遊休農地の活用意向があります
- 耕作放棄地や遊休農地の情報が、生産者に行き渡っていません
- 遊休農地は16ヘクタール以上あり、生産者の高齢化に伴い、今後も増加することが見込まれます

【若者の遊休農地の活用意向】 単一回答



## ●●● 生産者の想い ●●●



耕作放棄地を再生して、栽培面積を増やしたいので、農地の情報を提供してほしい!

儲ける農家になるために、次世代農業者の経営者意識醸成のための人材育成に力を入れてほしい!

「愛南産の柑橘」は個性豊かで美味しいことを町ぐるみでPRしてほしい

忙しい時期にはスピーディーに労働力を確保したいので、人材情報をタイムリーに発信してほしい!

生産の効率化が可能で、誰もが働きやすい、働きたくなるような条件の良い園地を早急に整備してほしい!

## ●●● 愛南柑橘営農の重要課題 ●●●

統計データによる基礎調査に加え、座談会やアンケート調査により生産者の想いを十分に伺った上で、愛南町の柑橘営農の強みと弱みを把握し、下記の通り重要課題を洗い出しました。

- 重要課題**
- 労働力の確保
  - 担い手の育成(経営者)
  - 人と農地の流動化の仕組みづくり
  - 生産効率化のための園地の整備
  - 栽培面積の維持拡大
  - 鳥獣害の対策の強化
  - ブランド化、6次産業化による高付加価値化

愛南柑橘の産地強化



愛南柑橘の高付加価値化

愛南柑橘の重要課題は、大きく分けて「産地強化」と「高付加価値化」の2つです。特に、愛南町の強みである河内晩柑を中心として、まずは生産量を維持し、拡大する必要があります。また、産地強化と同時に、ブランド化や6次産業化に取り組み、柑橘という愛南町の宝を磨き、さらに輝かせることが重要です。

# 持続可能なまちづくりを支える愛南柑橘産業の確立

～小さくて強い 世界に誇るオレンジワールドをめざして～

私たちにとって大切なのは、人口が減っても生産量を維持し、自立した強いブランド産地としての地位を確立することです。生産者の皆さまが夢とプライドを持って柑橘産業を盛り上げ、笑顔あふれる活力あるまちづくりを支えることが町の発展につながります。

外部環境が目まぐるしく変化する中でも、生産性の改善と高付加価値化を実現することで、安定した収入が見込まれます。

愛南町の生産者の皆さまの自立を促し、筋肉質な柑橘産地をめざす。そんな想いを将来像に込めました。

## 基本目標

	目標値	現状
【土地】柑橘耕地面積	450 ha	440ha <sup>*1</sup>
【人】柑橘販売農家数	150 経営体	153経営体 <sup>*2</sup>
【技術】柑橘総生産量	12,000 トン	11,510トン <sup>*3</sup>
販売額1,000万円以上の柑橘農家	45 経営体	32経営体 <sup>*4</sup>
認定農業者数 (認定新規就農者を含む)	15 経営体増加 (129経営体)	114経営体 <sup>*5</sup>

「柑橘耕地面積」を「増加」し、「販売農家数」を「維持」することで、「総生産量」の「増加」をもたらし、それが「所得」の「増加」につながり、「認定農業者数」を「増加」させるという上昇循環を果たすことを狙いとして、基本目標を設定しています。

\*1、\*3：平成26年産果樹統計 \*4 2015年農林センサス（養豚養鶏農家除く）  
\*2 2015年農林センサス \*5 愛南町（平成28年3月末）、柑橘農家

## 取り組みの方向性

### I 担い手の確保 一意欲ある生産者を育てる

#### 基本となる取り組み

#### K P I

新規就農者 毎年2人

農業生産法人 2法人増加

#### ① これからの愛南柑橘を引き継ぐ担い手の育成

柑橘生産者の主体となる担い手を育てるため、技能向上や意識向上を図ります。

#### ② 農地・労働力の確保

柑橘経営を安定させるため、収穫時等の労働力確保に町全体として取り組みます。

### 取り組み事業

#### ①次世代柑橘経営者育成事業

- 愛南柑橘営農環境改革推進協議会が母体となり、柑橘経営者の意識向上につながる施策を継続的に検討し、町全体で「生産者を受け入れ、育てる」環境を整備する。（定期勉強会、「地域のベテラン生産者」の助言による生産技術指導、新規就農者のための「里親制度」など）

#### ②柑橘営農活性化のための情報発信事業

- 農業支援センターが主体となって農業支援ホームページを作成し、労働力や農地の情報の見える化を図る。（農に関する情報発信、農地・人材バンク（マッチング）機能、ITを活用した農地情報の提供およびデータの共有による耕作放棄地の利活用など）

#### ③あいなん柑橘リクルート事業

- 農業支援センターと就職支援センターの連携により、労働力情報のデータベース化を図る。（求職情報の提供及び人材のマッチングなど）
- 町内の人材を優先的に雇用し、季節アルバイトの募集やお試し移住者の受け入れ態勢を検討する。（近隣他市町と連携したアルバイトの募集など）

## 取り組みの方向性

### IV 愛南柑橘の環境改善を強力に推し進める組織の確立

#### ①愛南柑橘ブランディング推進機構（仮称）の整備

- 事業を一元的に進める運営組織の構築を検討する。（モデル園地造成管理、加工施設運営、販促活動を戦略的に実行）

## 取り組みの方向性

## Ⅱ インフラ整備の推進

—柑橘営農を支える—

### 基本となる取り組み

K P I

優良モデル園地の造成 5ヘクタール

#### ③ 園地とその周辺の整備

柑橘生産の効率化と同時に、樹園地の拡大に取り組み、強固な産地化を図ります。

#### ④ 集荷・選果・出荷環境等の整備

柑橘の高付加価値化と出荷・流通コスト削減のための共同利用施設等の整備を図ることで競争力を生み出し、産地強化を後押しします。

### 取り組み事業

#### ④ 優良園地整備事業

- 優良「モデル園地」を造成する。また、段階的に優良園地を拡大し、産地強化をめざす。(目的:「生産者の営農意欲向上」、「担い手確保における動機づけ」、「水田等の畑地化に関する検証」、「IT技術利活用の模索」、「観光農園運営の検討」)
- 果樹園地(既存園地を含む)の作業効率化および働きやすい労働環境の整備を検討する。(補助事業や栽培指針等についての情報共有を図るなど)

#### ⑤ 鳥獣害防止対策推進事業

- 既存の補助事業の活用を促すとともに、技術改革の動向を注視しながらIT等を活用した先進的な鳥獣害防止策を検討する。

#### ⑥ 加工施設整備事業

- 一次加工場を整備する。(必要最低限の設備(搾汁、急速冷凍、選果など)で稼働/生産者のニーズや出口戦略の状況に応じて規模及び機能の拡充を検討)
- 加工場の運営組織を検討する。(生産者による組織(組合)等/自らが運営の在り方を能動的に考え、JAや町がバックアップできる体制を構築する)

#### ⑦ 共同利用可能な施設整備事業

- 共同利用施設の整備を検討する。(共同利用可能な選果場、低温倉庫、貯蔵庫などを整備し、町全体で長期出荷体制の構築を図る/共同利用による個人投資負担の軽減により、持続的営農の可能性を高め、リタイア防止を図る)
- 品質管理設備の整備を検討する。(光センサー、腐敗カメラなど)

## 取り組みの方向性

## Ⅲ 6次産業化・ブランドの確立

—愛南柑橘の価値を高める—

### 基本となる取り組み

K P I

観光農園の整備、運営 3農園

#### ⑤ 商品開発・販売による魅力発信

住民等を巻き込み、柑橘の食育、商品開発や販売等を通して愛南柑橘の魅力を高め、発信します。

#### ⑥ ブランドの確立による高付加価値化

全国一の生産量を誇る河内晩柑を中心に愛南ブランドを推し進め、産地間競争力の向上及び需要拡大を図ります。

### 取り組み事業

#### ⑧ 販売促進・PR事業

- 愛南柑橘の可能性を探るマーケティング調査等を強化し、まちぐるみで販売促進を検討する。(県立南宇和高等学校とコラボレーションした加工品開発/町内食品業者や小売業者等とのネットワーク強化など)
- 観光農園の運営を検討、推進する。(愛南柑橘と愛南町双方の価値向上につながるツアーの企画など)
- 安全安心を担保するための検討を行う。(機能性表示による高付加価値化への取り組み/大学・研究機関等へ実証フィールドの提供/産地GAP認証取得への取り組みなど)

#### ⑨ 愛南柑橘ブランディング事業

- 「愛南産〇〇」を推進する。(愛南産で販売を徹底し、愛南町と柑橘双方の認知度の向上を図る(水産品との連携))
- 愛南柑橘の認知度向上を図る。(デザイナーとコラボレーションして「愛南産」を象徴するロゴマークを作成し、シールや箱等で差別化する)

#### ⑩ 次世代の愛南柑橘導入事業

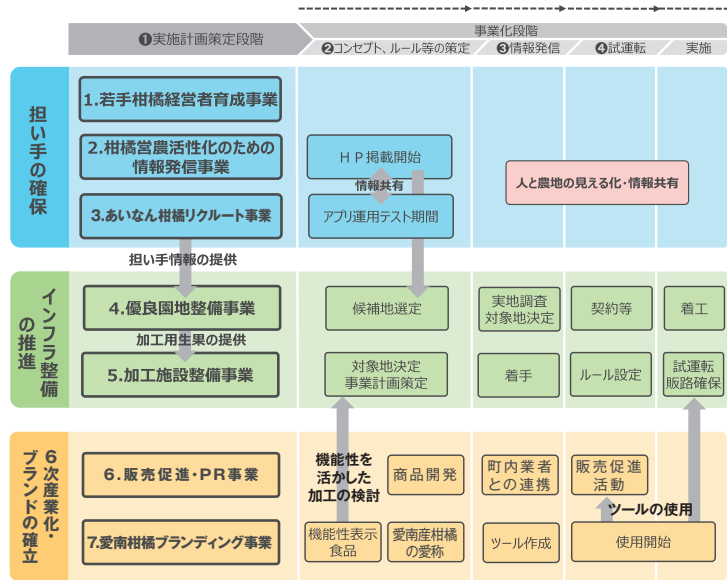
- 関連機関と連携して、有望品種の導入および検証を行う。(関連機関と生産者が連携し、河内晩柑の優良な系統を選抜し、最高品質のブランド化の可能性を模索する/優良モデル園地を活用して河内晩柑に変わる新たな品種について研究を進める)

## —愛南柑橘を未来へつなげる—

- 事業の実施計画段階においては、農業支援センターや協議会を中心として戦略的な事業の推進を支援サポートする。また、加工、販売等の具体的な事業の実施段階においては、生産者から成る組織を確立し、生産者による主体的な組織運営を想定する。

# 7つの重点プロジェクト

取り組み事業のうち、特に生産者の皆さまからのニーズが高く、直ぐに検討できる7つの事業を重点プロジェクトとして掲げ推進します。また、各事業が相互に連携し合い、重点プロジェクト間で相乗効果を生み出します。  
 ※重点プロジェクトは情勢の変化や進捗状況に応じて、実施時期や内容を柔軟に見直すものとします。



## 1 次世代柑橘経営者育成事業

### 事業の狙い

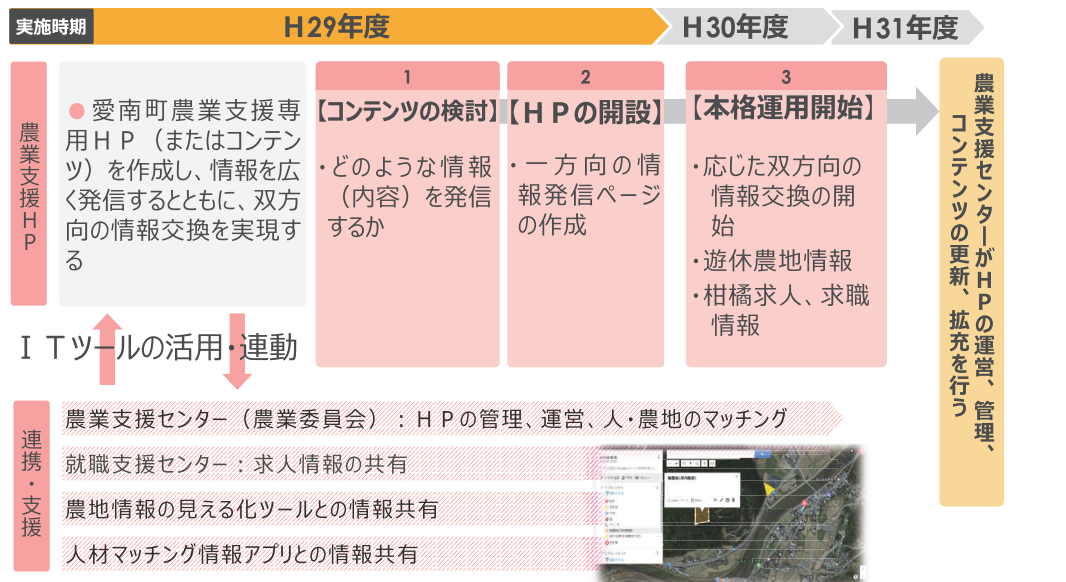
柑橘経営者を主とした町内の農家を対象に、経営意識や実務知識の向上を図り、意欲的な柑橘産業の人的基盤を築きます。



## 2 柑橘営農活性化のための情報発信事業

### 事業の狙い

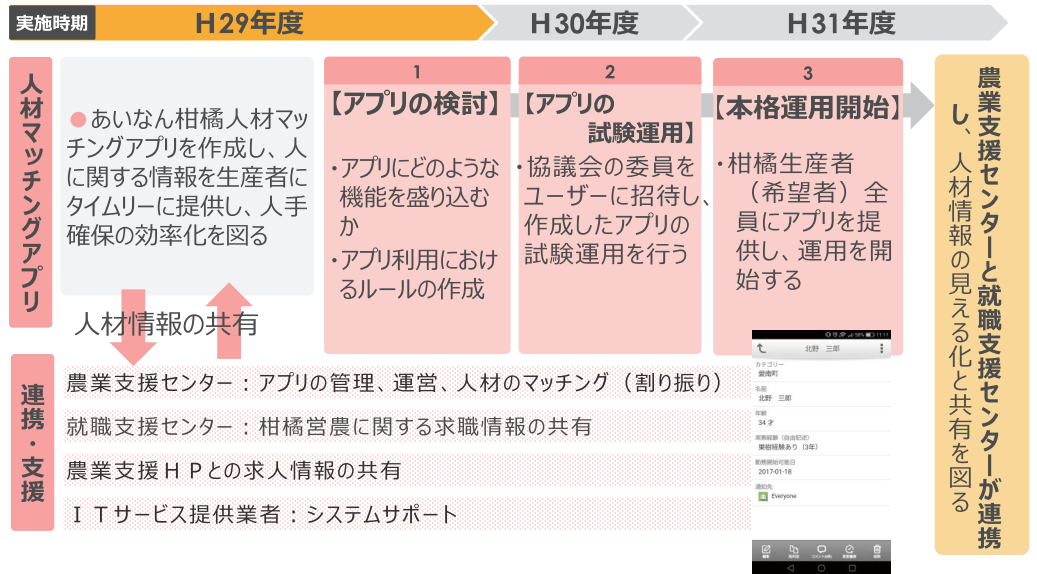
農業支援HPを作成し、愛南町の農業の紹介や、新規就農希望者や生産者に有益な情報提供を行います。収穫時の人手の確保や担い手への農地集積など、人と農地のマッチング機能等の効率化・高度化を図ります。



### 3 あいなん柑橘 リクルート事業

#### 事業の狙い

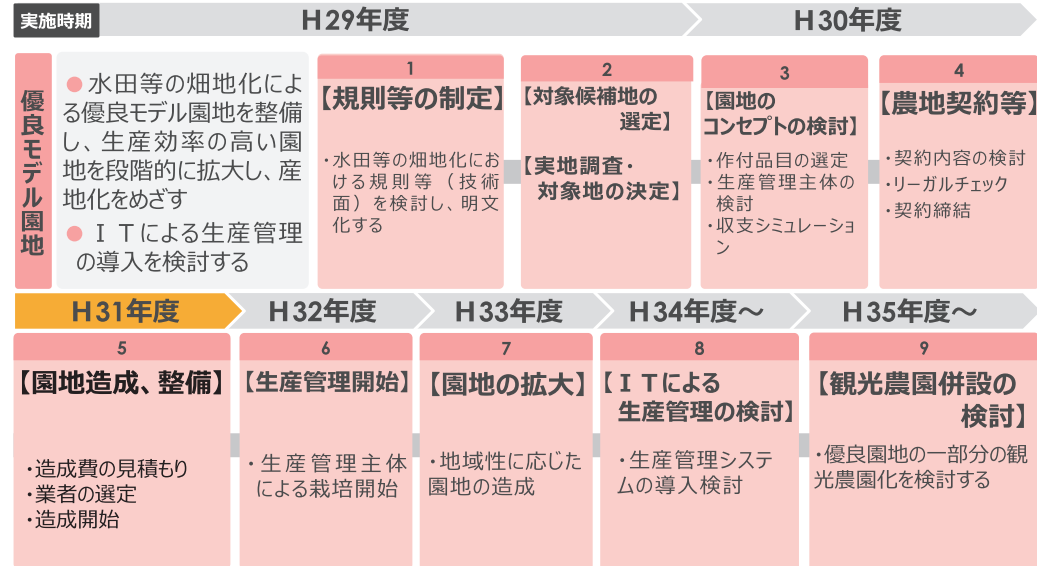
人材マッチングアプリを作成し、求職者の情報をタイムリーに生産者に配信することで、農繁期のスピーディーで効率的な人材確保を支援します。



### 4 優良園地 整備事業

#### 事業の狙い

優良モデル園地を整備し、若手生産者の営農意欲の向上を図るとともに、段階的に優良園地を拡大し、産地強化をめざします。また、水田等の畑地化や、観光農園の、IT技術を活用した生産管理の可能性を検証します。



### 5 加工施設 整備事業

#### 事業の狙い

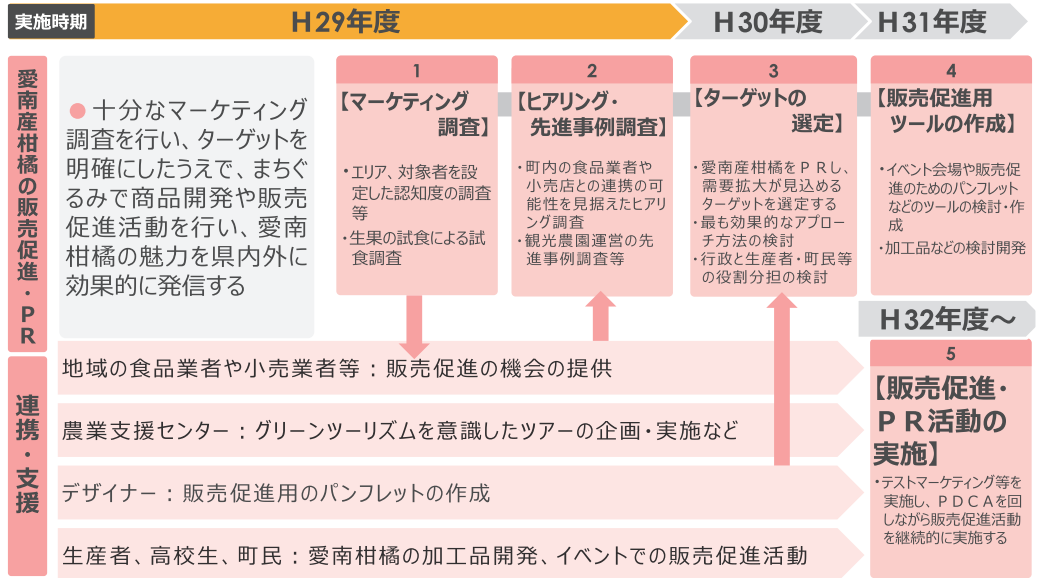
加工場を整備し、生産者等が主体となった柑橘の高付加価値化と、販路の拡大をめざします。また、差別化を図った加工により産地の地位を維持し、年間を通じて儲かる柑橘営農を実現します。



# 6 販売促進・PR事業

## 事業の狙い

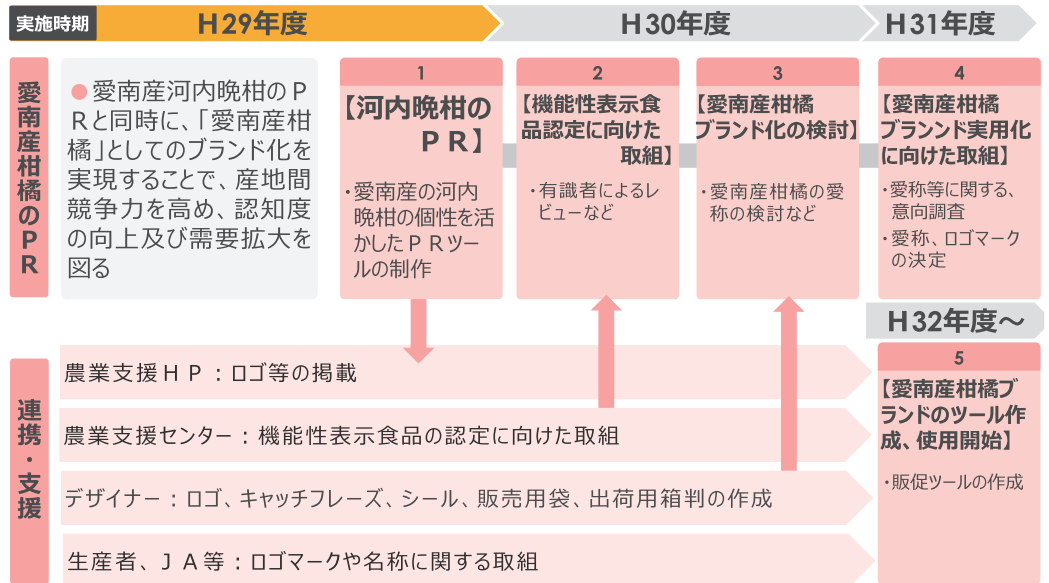
「まちぐるみ」の販売促進とPR活動により、愛南柑橘の魅力を発信し、認知度向上を図ります。  
町内の観光資源を活かしたツアー等、交流人口の増加を図り、町内外のより多くの人に愛される愛南柑橘をめざします。



# 7 愛南柑橘ブランディング事業

## 事業の狙い

全国一の生産量を誇る河内晩柑を中心に、愛南ブランドを推し進め、産地間競争力の向上及び需要拡大を図ります。



## ●●● 改革プランの推進 ●●●

改革プランの展開、実行にあたっては、担い手の確保をはじめ、インフラ整備の推進、6次産業化・ブランドの確立など多岐にわたる分野の施策を総合的に講じていく必要があります。改革プランのめざすべき将来像を実現するためには、この「PDCAのサイクル」を回していくことが重要です。PDCAのサイクルを確実に回して、その後の事業の実効性を一段と向上させることによるスパイラルアップをめざします。



### PDCAのサイクルとは

事業の実施管理に当たっては、まず計画(plan)を立て、それに従って(do)し、その結果を確認・反省(check)し、必要に応じてその行動を修正する処置(action)をとるというサイクルのことです。

問い合わせ先: 愛南町農林課  
TEL 0895-72-7311  
FAX 0895-72-6655

全体版はホームページに掲載しています。  
<http://www.town.ainan.ehime.jp>

